



絆

きずな

平成27年2月
第49号
荒川区立南千住第二中学校
校長 齊藤 進

ナンちゃん・ニーくん



凡事徹底 (ぼんじてってい)

～ 全国の特徴ある学校から学ぶ ～

校長 齊藤 進

私はこれまでに全国10数校の中学校を訪れたことがあります。それぞれその土地の特色を生かした取り組みをしている学校があります。心に残った学校を紹介します。

山梨県身延町立中富中学校は身延山を背に小高い丘の上から身延町が一望できる素晴らしい環境にありました。玄関を入ると無数のホタルを飼っている光景が目に入りました。全校生徒と一緒にランチルームで給食を摂っていると、放送で東京から来ました齊藤先生ですとの紹介がありました。突然のことでびっくりしましたが、学校をあげて歓迎していただいたことに感銘を受けました。

校舎と体育館が地元産のヒノキでできた岩手県遠野市の中学校は驚きそのものでした。何しろ壁も廊下も天井もすべてがヒノキでできているのでログハウスにいるような感覚におちいり、こんな環境で過ごすことができたらとうらやましく思いました。

山形県尾花沢市立尾花沢中学校では名物の尾花沢スイカをいただきましたが、校庭を見ると全校生徒が衣装もあでやかに花笠踊りを練習していて、その素晴らしい光景が今でも目に焼き付いています。

長野県長野市立柳町中学校では授業が終わると全校生徒が一斉に手ぬぐいを頭に巻いて掃除をしている姿を見た時には驚きと感動を覚えました。

長野県長野市立篠ノ井東中学校では「凡事徹底」が掲示されていました。凡事徹底とは**当たり前**のことを徹底して行うことです。この学校では無言清掃を合言葉に一言もしゃべらず黙々と生徒が清掃していました。長野県や群馬県などでは伝統的に無言清掃を行っている学校があるそうです。

私たちが日々生活する環境をきれいにする、という当たり前のことを徹底して行うことはとても大切なことだと思います。松下電器(現パナソニック)の創業者である**松下幸之助氏**が取引先の企業を訪問した時、販売高といった数字を見なくともその企業がうまくいっているかどうかをすぐに見抜いたそうです。松下氏の評価基準はごくシンプルで、一つは従業員のあいさつ、二つは整理整頓、三つはトイレの掃除です。この三つをみれば大体その会社の様子はわかるといわれました。「企業を学校に例えると...」と考えると身が引き締まる思いです。私たち教職員も生徒の皆さんも「凡事徹底」と三つのことを常に心がけましょう。



2年生

鎌倉遠足

2月6日(金)、2年生の校外学習「鎌倉遠足」が行われました。東京は前日から雪や雨にみまわれ、天候が心配される中での実施でした。しかし、当日は晴天に恵まれ、元気に楽しく古都・鎌倉の歴史を学習してきました。

鎌倉までは班ごとに出かけました。南千住駅でチェックを受け、自分たちの力で電車を乗り継ぎ、東京駅を經由し北鎌倉または鎌倉駅に到着しました。現地では、事前に自分たちで立てた計画に沿って行動しました。鶴岡八幡宮や大仏の高徳院、円覚寺や建長寺、銭洗い弁天など、江ノ電を使ったり班ごとに歩いて目的地を目指しました。昼食も自分たちで計画したお店で食べました。中には事前に予約をしていた班もありました。計画したとおりの時間で行動するのはなかなか難しく、時間が余ってしまったり、反対に予定していた見学地をカットせざるを得なかった班もありました。しかし、その時の臨機応変の対応なども、5月に予定されている修学旅行などで大いに役立つはずです。

見学後の14:30の集合時刻には小町通りなどで買ったお土産を手に、ほぼ全部の班が鎌倉駅に戻ってきました。鎌倉駅からは学年全員で南千住駅まで戻り、解散しました。鎌倉の歴史を学ぶと同時に、自分たちで計画し、自分たちで行動するという貴重な経験ができました。



鶴岡八幡宮にて



大仏と一体花

1年生

街の先生教室

2年生の鎌倉遠足と同じ日、2月6日(金)の午後、1年生は「街の先生教室」を行いました。社会で活躍する職業人に直接お話を聞く機会でした。この日は講師として、荒川消防署の消防士、東京家庭裁判所の裁判官、カメラマン、旅行会社の添乗員、義肢装具士、NPO法人のボランティア活動家、調理師の、合計10名もの方々にご来校いただきました。全体会でご挨拶をした後、分科会に分かれ、この中から希望する2グループの方からお話を聞くことができました。どの方のお話も実社会での臨場感あふれるお話で、ただただ驚きと感心の連続でした。分科会では裁判官の裁判服を着せていただいたり消防士の装備を実際に装着させていただいたりもしました。お話などを通し、それぞれのお仕事での苦労や喜び、やりがいなどについても感じる事ができ、将来の自分の職業について考えるととても良い機会にもなりました。大変貴重な機会を与えて下さった講師の皆さま、ありがとうございました。

輪になって貴重なお話を聞く



消防士の装具の重さにびっくり

1年生

和太鼓教室

2月3日(火)には、音楽の授業の一環として日本の伝統音楽を学ぶため「和太鼓教室」が行われました。今年も天王太鼓「つくも会」の方々に指導していただきました。2時間目からクラスごとに1時間ずつ行いました。

まずは基本的な打ち方を練習しました。つくも会に所属している1年生5名や他の太鼓サークルに所属している人たちは、さすがのバチさばき。みんなに手本を示してくれました。

見ていると簡単そうに見えても実際にやってみると上手にリズムをとったり、大きな音を出すことはなかなか難しいことだと分かりました。しかし、交代で何度もたたいてうちにだんだんコツがつかめてきました。

1時間があっという間でしたが、時間が終わる頃には「荒川音頭」に合わせて心地よく、力強い太鼓の音がたくさん響き渡りました。

先生方も挑戦



手本に従いだんだん上手になってきた



先生方も挑戦

つくも会の皆さま、ありがとうございました。

1年生

う歯予防教室

こちらも1年生、1月30日(金)の5,6校時、う歯(虫歯)予防教室が行われました。サンスター財団の歯科衛生士の方が各クラスについてくださり、健康な歯に関するお話や、歯に関するクイズ、歯磨き指導をしてくださいました。

歯磨き指導では、歯垢を染める赤い薬剤を口に含むと、歯のあちらこちらが真っ赤になってしまいました。それを歯ブラシで磨いてもなかなか取れない部分がありました。普段の歯磨きでは汚れを残したままになっている場合があることを痛感し、今まで以上にしっかり磨こうと決意しました。また、希望者にはフッ化物洗口の体験も行われました。虫歯のメカニズムや歯磨きの大切さ、そしてなにより健康な歯の大切さを身をもって知ることができました。

歯科衛生士の皆さんありがとうございました。



...実際に歯磨き

歯科衛生士さんのお話を聞き...



区展・都展

1月23日(金)から26日(月)まで、荒川区立中学校連合展示会

が町屋文化センターを会場にして行われました。区内10から美術や書写などの優秀作品が一堂に集められ、展示されました。南千住二中からも、各学年の書き初め、家庭科の作品(2年;クロスステッチの巾着、ペットボトルケース、3年;カラフルボール)、美術の作品(1年;粘土で作った空き缶、2年;レタリング、生き生きしている自分、3年;観光ポスター、堆朱ストラップ)が延べ129名の作品が出品され、ところ狭しと展示されました。

区展に出品されたものの中から特に優れたものは、2月9日(月)~14(土)に行われている第64回東京都公立学校美術展覧会(会場;上野・東京都美術館)に出品されています(出品者は最終頁に紹介しています)。この都展には東京都の公立小・中・高校の優秀作品が出品されています。いわば美術作品の都大会といったものです。そこに出品されることは大変栄誉なことです。

なお、都展の入場料は無料、どなたでも見学できます。この機会にぜひご参観を。

ひときわ光る書写作品



南千住二中の展示ブース

東京駅伝

2月8日(日)、第6回中学生「東京駅伝」大会が、味の素スタジアム・都立武蔵野の森公園の特設周回コースを会場に行われました。この大会は東京都の各市区町村の中学2年生で構成されたチームで争われます。南千住二中からは、陸上競技部・運動部を中心に5名の選手が荒川区代表選考会に参加しました。その中から2年1組女子1名が荒川区の代表として選出され出場しました。その南千住二中の選手が任されたのは栄誉あるアンカーでした。2月2日(月)の全校朝礼で紹介され、力強い決意を述べてくれました。全校生徒からは激励の拍手が送られました。



決意を述べる代表選手

女子のスタートは午前10時。やや曇り空でしたが、参加50チーム(23区・26市・1町)の選手が号砲とともに一齐にスタートしました。各地区の期待を背負って懸命な走りが続きました。アンカーにタスキが渡されたときの荒川区の順位は16位。降り出した雨の中、力強い走りでも2.5kmの最後の周回コースを走り抜けました。抜きつ抜かれつのデッドヒートの末、順位を保ち16位でゴール。昨年度の20位を上回る好成績でした。荒川区の総合成績(男子チームとの合計;男子は35位)は22位で、こちらも昨年度を上回りました。南千住二中の選手をはじめ荒川区各中学校の選手達の健闘に賞賛の拍手を送りましょう。



スタートのようす(資料写真)

ドロだんご(!?)ボランティア

南千住二中レスキュー部による地域ボランティアが広がりをみせています。2月8日(日)には、「ドロだんご教室」のボランティアに20名のレスキュー部員が参加しました。この会は荒川区青少年地区委員会が主催して行われるもので、小学生以下の子どもたちが普段触れる機会が少ない「ドロ」でお団子をつくり、磨いてきれいに仕上げるといふものです。中学生ボランティアには子どもたちが作る「ドロだんご」が上手にできるように支援したり、できた「作品」が壊れないように補助をすることが求められました。



お手伝いと見守り



完成したドロだんごを手に大喜び

会場となった第三瑞光小の体育館には、楽しみにしていた小学生以下の子どもたちが約40人集まりました。ほぼ2人の子どもに1人のレスキュー部員がつく形でドロだんご作りがスタートしました。小さい子の頑張りについて手を出してしまいたくなりますが、そこはじっとこらえて見守ります。分かりやすくアドバイスをしながら何とか完成。その後「磨き」にかかります。せっかく作ったドロだんごが割れてしまわぬよう細心の注意が必要です。きれいに磨き上がったドロだんごを手に、うれしそうなお子どもたちを見てボランティアに参加した部員達もうれしくなりました。

これらのボランティア活動は、地域との深い絆を築くために、大きな役割を果たしています。地区委員会の方々からも感謝の言葉をいただきました。

【ドロだんご教室ボランティア参加者】

- 3年1組女子1名、3年2組男子1名、女子2名、3年3組女子4名
 - 2年1組女子1名、2年2組女子1名、2年3組女子1名
 - 1年1組女子1名、1年2組女子2名、1年3組女子6名
- 合計 20名

3年生進路

3年生は進路選択の最終段階を迎えています。2月2日(月)には、都立高校推薦入試の発表がありました。この発表で22名が合格しました。また、先に行われた私立高校の推薦入試や他県の私立高校、国立高校で合格した3年生も22名。すでに合計44名の進路が確定しました。職員室や校長室には続々と合格の報告者が訪れました。しかし、入試はまだまだ序盤戦です。これから2月10日(火)を皮切りに、都内私立高校の一般入試、2月24日(火)の都立高校一次・分割前期入試と続きます。



合格の報告

部活動等 生徒の活躍

レスキュー部が快挙!!

《レスキュー部》 東京都教育委員会児童生徒表彰 受賞

レスキュー部の活動が東京都教育委員会に認められ、上記の賞を受賞しました。運動部の大会ならば、全国大会決勝進出が受賞対象になるようなとても大きな賞です。地域防災に中学生が果たす役割を考えた様々な活動が高く評価されました。

《吹奏楽部》 東京都中学校アンサンブルコンクール 銀賞

《ソフトテニス部》 荒川区1年生大会 第3位 1年2組男子2名のペア

《都展出品者》

	<家庭科>
カラフルボール	3年2組女子1名
クロスステッチの巾着	2年1組女子2名
ペットボトルケース	2年1組女子2名
	<美術科>
観光ポスター	3年1組女子3名、3年2組男子2名、女子1名
生き生きしている自分	2年1組男子1名、女子1名、2年2組女子1名、 2年3組女子1名
粘土で作った空き缶	1年1組女子2名、1年3組男子1名、女子2名



南千住マイスターのコーナー

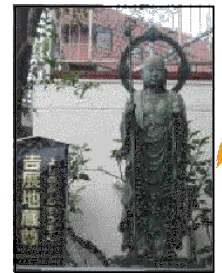
この難事件を手がけたのが「落としの八兵衛」との異名をもつ警視庁の平塚八兵衛刑事でした。平塚らは、捜査線上に上がった関係者のアリバイなどの裏付けをし直しました。犯人は小原保という福島県出身の男でした。小原は足がやや不自由などから身代金奪取が難しいなどの理由で捜査線上から一端外されてきました。しかし、平塚の取り調べで「日暮里の大火」の日に東京にいたことが明らかになり、アリバイが崩れます。これを機に小原は全面自供しました。事件解明まで、なんと2年3ヶ月を要しました。吉展ちゃん誘拐直後に殺害されており、供述通り、円通寺の境内から白骨化した遺体が発見されました。円通寺の境内には幼い子を抱く「吉展地蔵」が建立され、両親が檀家だった同じ南千住の回向院には吉展ちゃんの冥福を祈る「吉展地蔵尊」が奉られています。幼くして命を奪われた吉展ちゃんのご遺族のご関係の皆さまに心から哀悼の意を表します。

「吉展ちゃん事件」は、一度は聞いたことがある日本中を震撼させた昭和の誘拐事件です。その悲しい事件の舞台となったのが他ならぬ、この南千住です。

1963(昭和38)年3月31日、台東区入谷町で当時4歳の村越吉展(よし)の遺体が何者かに誘拐され、身代金を要求する電話がかかってきました。これが「戦後最大の誘拐」と言われた「吉展ちゃん事件」の発生でした。この事件では、日本で初めて「報道協定」が結ばれ、これを契機に、被害者やその家族に対しての被害拡大防止およびプライバシー保護の観点から、誘拐事件の際には報道協定を結ぶ慣例が生まれました。

犯人が要求した身代金は50万円。当時としては高額でした。犯人はその身代金奪取に成功します。警察はその時、寸前のところで犯人を取り逃がしてしまいます。吉展ちゃんの救出のための懸命な捜査が続けられました。報道協定解除後の公開捜査においては、テレビを本格的に取り入れ、犯人からの電話の音声を公開し情報提供を求めるなど、メディアを用いて国民的関心を集めた初めての事件でもありました。事件前後には、連日のように南千住の街がテレビに映し出されました。しかし、捜査は難航し、迷宮入り寸前になっていました。

南千住と歴史上の人物 その10 日本中を震撼させた『吉展ちゃん事件』



回向院 吉展地蔵尊